2010 年度 小委員会活動成果報告

（2011 年 1 月 31 日作成）

小委員会名	室内空気環境小委員会	**主 査 名**：柳　　宇 **就任年月**：2009 年 4 月
所属本委員会 （所属運営委員会）	環境工学本委員会 空気環境運営委員会	**委員長名**：久野　覚 **主 査 名**：近藤靖史
設　置　期　間	2009 年　4 月　　～　　2013 年　3 月	
設　置　目　的 各年度活動計画 （箇条書き）	【設置目的】 ・室内空気中の化学物質、微生物、臭気など室内空気汚染物質全般について既往の設計法や維持管理基準を検討する。 ・新しい設計法、測定法の規準の提案や居住者のための指針を提案する。 【2010 年度計画】 ・浮遊微生物測定法に関する既往の文献をレビューし、学会規準制定のための CD を作成する。 ・微生物アカスタ（AIJES-A002-2005）改訂に当たり、2005 年以降に公表された新しい知見を収集・整理したうえで，学会規準改定のための CD を作成する。 ・室内空気環境におけるウィルス感染対策検討 WG を設置し，建築・設備の対策のあり方について検討を行い，次年度作成予定の報告書の基礎資料を整備する。 ・室内臭気規準改定 WG を設置し，学会規準改定のための基礎資料を収集する。 ・ホルムアルデヒドアカスタ改訂 WG を設置し，学会規準改定のための基礎資料を収集する。	
委員構成 （委員名（所属））	**委員公募の有無**：有り 柳宇（工学院大学）、池田耕一（日本大学）、大場正昭（東京工芸大学）、小竿真一郎（日本工業大学）、鍵直樹（国立保健医療科学院）、武廣絵里子（鹿島建設）、湯懐鵬（新菱冷熱工業）、野﨑淳夫（東北文化学園大学）、長谷川麻子（熊本大学）、堀雅弘（横浜国立大学）、光田恵（大同大学）、山口一（清水建設）、横山真太郎（北海道大学）、吉澤晋（愛知淑徳大学）、高塚威（新日本空調）	
設置 WG （WG 名：目的）	・微生物アカスタ改訂 WG（2009.4.1～2011.3.31） ・浮遊微生物サンプリング法学会規準作成 WG（2009.4.1～2011.3.31） ・室内空気環境におけるウィルス感染対策検討 WG（2010.4.1～2012.3.31） ・ホルムアルデヒドアカスタ改訂 WG（2010.4.1～2012.3.31） ・室内臭気規準改定 WG（2010.4.1～2012.3.31）	
2010 年度予算	180,000 円	**ホームページ公開の有無**：無し **委員会 HP アドレス**：

項　　目	自己評価
委員会開催数	4　回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	1．シックハウス対策マニュアル（2010 年 8 月） 2．室内の臭気に関する嗅覚測定法マニュアル（2010 年 9 月）
講習会	「室内の臭気測定法－嗅覚測定法－」講習会（9 月,参加者 60 名）
催し物 （シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等）	

大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	当初計画の通り，委員会活動を行った。また，傘下の 5WG の活動状況は下記の通りである。 ① 微生物アカスタ改訂 WG：年 4 回の委員会を開催した。当初計画通り，委員会での議論を経て微生物学会規準改定のための CD を作成した。（達成度 → 100%） ② 浮遊微生物サンプリング法学会規準 WG：年 4 回の委員会を開催した。当初計画通り，委員会での議論を経て浮遊微生物サンプリング法の CD を作成した。（達成度 → 100%） ③ ホルムアルデヒドアカスタ改訂 WG：年 4 回の委員会を開催した。初年度の作業として，2005 年後の WHO を含めた国内・海外の最新情報を収集し，学会規準改定についての議論を行った。（達成度 → 70%） ④ 室内空気環境におけるウィルス感染対策検討 WG：年 4 回の WG を開催した。初年度の作業として，収集した国内・海外の文献について担当者の発表と全員での討論を行った。（達成度 → 80%） ⑤ 室内臭気規準改定 WG：年 4 回の委員会を開催した。初年度の作業として，学会規準改定についての議論を幅広く行った。（達成度 → 80%）
委員会活動の問題点・課題	委員構成に専門性のほか地方性も重要な要素としたが，交通費が著しく不足している。

＊小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。